

令和6年度 自己評価書

学校名	和歌山市立安原小学校
校長氏名	永原 三士
作成日	令和 7年 2月 13日

1 教育目標

自ら学び、心豊かで創造性に富む子どもの育成

2 本年度の取組についての評価

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	○授業がよく分かる児童が90%以上 ○学力調査の正答率を市平均並みにする	○学校が楽しいと感じる児童が90%以上 ○いじめの解消率が100%	○朝ご飯を食べた児童が100% ○体力テストの各種目の数値が昨年度を上回る	○学校の様子がよく分かる保護者が90%以上 ○学校間・地域連携実践できた教員が90%以上
重点目標	◎基礎・基本の定着 ◎主体的・対話的な授業の推進 ◎家庭学習の推進 ◎読書活動の推進	◎道徳・人権教育の充実 ◎いじめの未然防止・早期発見 ◎体験活動の充実 ◎仲間作りの充実	◎体力向上の推進 ◎健康・安全習慣の確立 ◎基本的生活習慣の確立 ◎危険回避能力の育成	◎コミュニティスクールの充実 ◎中学校区での学校連携の推進 ◎保幼小の接続の連携 ◎地域資源の活用推進
取組の状況【D】	○学びあいの授業づくり推進のため、研究授業や協議会を充実させ、実践力を高める。 和歌山信愛大学 小林康宏教授の指導を受ける。 ○タブレット端末を活用しながら、自ら課題を見つけ、追及する授業を実践する。 ○家庭学習の手引きをもとに、保護者と協力しながら基礎学力の定着を図る。 ○読み聞かせや読書タイムを実施するとともに、読書ボランティアの方々にも来ていただき、図書室の開放を行っている。	○人権・部落問題学習を、組織的・計画的に行う。 ○いじめアンケートを毎学期に実施し、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努める。 ○不登校児童支援員やスクールカウンセラー、その他関係機関と連携し、不登校児童の対応にあたる。 ○児童会のイベントや高学年の宿泊体験活動等を通じて、自他を尊重する意識を養い、仲間意識を培う。	○生活アンケートを実施し、基本的生活習慣の確立に努める。 ○体育学習における運動量を確保し、運動に親しむ習慣をつける。 ○高学年の希望者対象に、陸上競技の早期練習を実施する。 ○毎学期、避難訓練(火災、地震・津波)を実施するとともに、交通安全教室を開催し、歩行や自転車の実技指導を行う。	○年3回学校運営協議会を開催し、運営委員の方々から様々な意見をいただき、学校運営を充実させる。 ○保幼小の接続、中学校区での小学校同士や中学校との連携を推進する。 ○ホームページを活用し、学校によりやイベント等の状況を発信する。
取組の成果と課題【C】(評価結果)	○全国学力調査(6年)では、全国平均の比べ国語－3P、算数－4Pであった。昨年度とほぼ同じような差であった。 ○県学力到達度調査での県平均との差は、 4年 国語－2.4P 算数－7.6P 5年 国語－5.6P 算数－2.8P 理科－1.7P	○いじめアンケートの毎学期実施、保護者からの相談等によりいじめの早期発見・解決につながった。 ○解消率は100% ○不登校児童や不登校傾向を示す児童に対し、保護者や関係機関と連携し、対応・支援の充実を図った。	○朝食を毎日食べている児童は、90% ○全国体力・運動能力調査では、全国平均を上回る種目数は昨年と比べてほとんど変わらなかったが、全国平均を下回る種目数が48から35に改善した。	○学校の様子がよく伝わったと感じる保護者は、74%(－7P)であった。学校からの情報発信方法について改善していきたい。 ○各学年に応じ校区探検や農作物づくりなど、地域の方々にご協力いただき学習を進めることができた。 ○地域の幼稚園・保育所との交流ができた。
改善方法【A】(次年度に向けて)	○基礎基本の定着のため、どの子にもわかる授業を目指し、授業の工夫改善を行う。 ○毎週の読書タイムに継続して取り組むとともに、読書環境の一層の充実に努める。	○いじめはあるものと認識し、各担任が児童の様子を細かく観察するとともに、全教職員が意思統一していじめ問題に取り組んでいく。 ○教職員の人権研修を毎学期実施し、人権意識を高めていく。	○引き続き、体力向上のため、体育の授業の運動量確保に取り組む。 ○火災・地震・不審者対策等の避難訓練を毎学期に実施し、児童の危機回避能力の向上に努める。	○学校からの情報の伝え方を工夫し、学校の様子をタイムリーに伝えていきたい。 ○学校での授業や行事などの場面で、保護者・地域の方々の協力を呼び掛け、参加していただく機会を設ける。

3 その他の課題